

令和3年度 交通安全作文募集
優秀作品集

交通安全



令和3年度 山口県交通安全ポスター最優秀賞作品
(周南市立 沼城小学校1年 岩本 悠李)

交通安全年間スローガン

は
じ
め
に

◎山口県

住みよい山口 いつも心に 交通安全

◎全国

☆運転者（同乗者を含む）へ呼びかけるもの

○手を上げる 子どもはあなたを 信じてる

☆歩行者・自転車利用者へ呼びかけるもの

**○スマホじゃない 見るのは前でしょ
周りでしょ**

☆こども（中学生以下）へ交通安全を呼びかけるもの

**○とうげこう よそみ おしゃべり
きけんがいっぱい**

「住みよい山口 いつも心に 交通安全」交通事故のない、住みよい山口県はみんなの願いです。
このためには、県民一人ひとりが交通ルールと交通マナーを守り、そのことを習慣づけることが何よりも大切です。

この作文集は、令和三年秋の全国交通安全運動の一環として、各警察署、各地区交通安全協会及び各教育委員会並びに各学校のご協力により、小・中学生から寄せられた六一六点に及ぶ交通安全作文の中から優秀な作品を選び編集したものです。

こどもの立場から見た交通安全についての貴重な意見や考え方が素直に述べられています。
交通安全意識の普及・啓発と交通事故の防止に役立てていただければ幸いです。

令和四年一月

一般財団法人 山口県交通安全協会
会長 村田常雄

もくじ

小学校の部

最優秀

脚本

卷之三

卷之三

秀

妹のお手本になるよ

おばあちゃんと交つうあんぜ

おじいちゃんの運転めんきょ

安全な通学路

作

いのちのまもりかた
ぼくのつかうおうだんはどう

下松市立豊井小学校

一年

中村弥尋

山口市立井関小学校

五年

片岡 恵万

田布施町立城南小学校

二年

藤井咲綺

周南市立德山小学校

二年

溝
田
基
陽

和木町立和木小学校

四年

可本勇希

卯井市立小田小学校

四
手

九
長
遼太那

- 数分を大切に
- 自転車と思いやり

下松市立公集小学校 四年 森 重 千 紗
周南市立徳山小学校 四年 藤 原 望 見

令和三年度 交通安全ポスター最優秀賞作品

中学校の部

最優秀

○ 「少しの不注意で」

○ 交通安全の大切さ

○ 「少しの注意と救える命」

佳作

○ 犬を飼いはじめて気づいた交通安全

○ 身近に起ころるあたり運転

美祢市立秋芳中学校 三年 野 村 美 月

防府市立小野中学校 一年 横 田 こはる

周防大島町立周防大島中学校 三年 中 川 千 夏

山陽小野田市立竜王中学校 三年 村 田 妃 莉

下関市立川中中学校 二年 杉 本 昊 来

小学年の部

最優秀

ぼくはふくはん長さん

光市立三輪小学校

三年 沖野 賢吾

学校まで十五分ぐらいの道のりを一れつになつて歩いて行きます。通る道は、ほとんど歩道がないだん地です。だん地を出ても歩道がない坂があります。

そこをのりこえると、やつと大通りに出で歩道があります。ここで、毎朝先生や、あいさつボランティアのおじさんに会えるのでほつとします。ここに来るまでは、朝仕事に行く車が横を通ります。どちらうほいく園もあるので車もよく通ります。ぼくたちに気づいてくれてスピードをおとしてくれる車もいるけれど、いそいでいる車もいて、車が通るところわいです。うしろは見えないので、お兄ちゃんが、一年生二年生の様子を教えてくれます。また、車が来たときは「車来たよ」と声をかけてくれます。
だから、ぼくは、ふくはん長として、前の安全をまもります。去年までは、ふくはん長の次には、妹と近所の一年生、次に一年生の二人、一番うしろが、ぼくのお兄ちゃんの五年生です。毎日、朝七時二十八分に集合して、

ではなべ前の人につこうこかざよかつたので、何も気にしないとせなべ登校してしまった。

でも今はらべばよ長とじて、氣をつかいでいる事があつます。一年生、一年生は、歩くペースがまくみつめりべつなので、ペースを合わせるよりこつまわ。時々ひしるをかくにんし、かくにんじあいしなじともは、お兄ちゃんから声をかけてもりこまわ。歩くときは、しつかり前を見るのを氣をつけます。横だん歩道では、しつかり止まつて、車が来ないかをかくにんします。車が止まつてくれたひ、おれいもわすれずに「ねつがとうじぞこます。」近所の人にゆきつたり大きな声で「おはよいじぞこまわ。」といつよいじしてします。

これまで、大きなじつ、力がわぬませど。

毎日、JR線に安全に登校することができて、よひじぞこまわ」といつよいじしてします。

ますが、それは当たり前のことではあります。テレビのニュースで、小学校の登校中で車がつづりみ、じじがあつたと、やつた」とあります。

それをきこるとわかつたです。

ぼくたかせ、こつじにあきこまれるかわかりません。「こつもだこじょいふ。「今日もだいじょいふだつたから。」と思わなこようくに、毎日、安全をかくにんする」とは大切だと思こます。

だから、まくせ、毎朝、ふくはよ長をとじしてしつかり前の安全をまわします。

交通安全を作るもの

山口市立井関小学校

五年 上岡 恵万

以前、この交通安全の作文で、私の通学路は、歩道がなくてあぶないと書きました。ところが、去年、新しくなったことが一つあります。

一つは、歩道ができたことです。むづ一つは、横断歩道が緑と白の2色にカラーほそつされたことです。去年から、弟が小学校に入学して、一人で通学するようになりましたので、とても歩きやすくなりました。

歩道が変わる前と後で、変わったことがあります。まあ、できる前は、車が自分の近くを通るのじわかったのです。地面がボコボコしてじて、歩きひづれ、つまづこひじかそうだなど思ひつけるもあつました。

できた後は、歩道と車道の間に、境界ブロックができたので、車がつっこんでくるかもしれないことじつ心配がなくなりました。歩く所の幅が広くなつて、アスファルトまわりわれ、平らになつたので、歩きやすくなりました。特に、雨の日は、かさをひるがして、車道にはみでないのです、ねらじゅ。

でも、こじりとばかりではあります。前は、車を運転する人が心配に思つのが、横断歩道の前で、止まつてくれる人がこまつたが、今はその数が減りました。これまで、この場所が危ない所だと分かっている人が気を付けてくれていただけれど、歩道やカラーほそつがあるから、きっとぶつからないだろつと車の方が思うようにになつてしまつたせいではないかと思こます。

他にも、前は、車が横を通り過れる時に、スピードを落とつて車道の真ん中にやつていて

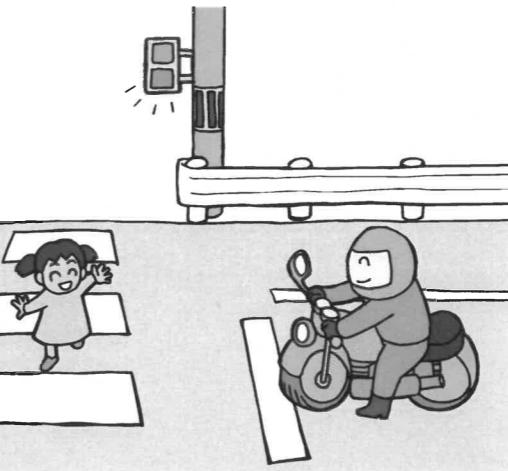
れていたけれど、今はびゅんびゅん飛ばして通りすぎます。

私は、歩道があつた方が安全に違いないと思つていたけれど、実は、車を運転する人の気がゆるむとの問題があることに気がつきました。結局は、交通安全は、安全しせつのあるなしだけではなく、人の心がけによつて作られるものなのです。車を運転する人は間です。よくテレビで、あおり運転のニュースが流れています。これも、相手を困らせてやろうとこう人の気持ちで起つるものだと思います。車の運転手さんも考えて運転する人もいるから、私たち小学生も、気を付けてもらえて当たり前と思わずに、安全に歩くにはどうあればいいかを考えなければいけません。

弟と通学するようになりましたが、登校中に、これまでの自分のペースで歩いていて、

ふと後ろを見ると、弟がつぶつて来ていましたことがあります。私自身も、弟を事故にあわせないようになります。弟がいればこうか考えた行動をしないとけません。

車に乗る人、歩く人、見守る人、安全しせつなぞ、色々なもののが混ざり合つて、交通安全をみんなの力で作り上げてほしいことが大切だと思つます。



優秀

妹のお手本になるよ

田布施町立城南小学校

一年 藤井 咲綺

教室がありました。
「道を一れつで歩かないよ。」

と、先生が教えてくれました。
だから、学校に行く時と帰る時は、一れつ

で歩いています。

でも、本当は、学校に行く時と帰る時に、友だちと一緒に歩きたいです。
ながら歩きたいです。

わたしは、どうして一れつで歩いてはいけないのかを教えてみました。それは、道にはみ出して、車や自転車にぶつかるかもしれませんからです。

わたしは、お母さん、「車をうとうとしてる人に、めぐわしくなるから、一れつで、気をつけて歩いてね。」

地じきの人や、先生たちのおかげで、わたしたちは、元気に楽しく元気に、学校に行くことができます。

わたしが小学校に入学して、交通あんぜん

大きな声で、「おはよのうれこまか。」

と言つと、とても気もちがこじらです。

地じきの人や、先生たちのおかげで、わたしたちは、元気元気に、学校に行くことができます。

学校に行くまでは、一かしょ、おうだん歩

道を通りまわ。おうだん歩道のなじ道をわたるばしょせ、一かしょあります。わたしは、

おうだん歩道のなじ道をわたる時は、立ち止まつて、右と左を見て、車や自てん車がいな

いことをかくにんしてから、道をわたつていまわ。

来年、妹が一年生になります。妹と一緒に学校に歩いて行くのが楽しみです。妹も楽しみにしてます。妹が、あんぜんに、学校に行けるように、わたしがお手本になつてあげよつと思つます。そのために、妹が入学する前に、通学路を一緒に歩いて、おうだん歩道のわたり方や、おうだん歩道のなじ道のわたり方を、教えてあげようつと思つます。

おばあちゃんは、車をうさんこんします。まい日、車にのっておじょとや、こといのおむかえや、かこむのに行つてこまわ。おばあちゃんが、車をうさんこんする時、せりふをうさんこんしようと、車をうさんこんするのを見ていたりして、人との分のあんぜんをまわれなじかりだいじめです。だから、せりふおばあちゃんが、この車にのる時

あるじてこる人を見つけられなかつたり、目の前のしんじうをとおりこして、とおいしんじうを見ていたりして、人との分のあんぜんをまわれなじかりだいじめです。

だから、せりふおばあちゃんと歩つてあんぜん

おばあちゃんと歩つてあんぜん

周南市立徳山小学校

一年 溝田 基陽

ばくこは、おばあちゃんと、みこわん（おばあちゃんのあね）がこまわ。

おばあちゃんは、車をうさんこんします。まい日、車にのっておじょとや、こといのおむかえや、かこむのに行つてこまわ。

おばあちゃんが、車をうさんこんする時、せりふをうさんこんしようと、車をうさんこんするのを見ていたりして、人との分のあんぜんをまわれなじかりだいじめです。

おばあちゃんは、車をうさんこんします。まい日、車にのっておじょとや、こといのおむかえや、かこむのに行つてこまわ。

おばあちゃんが、車をうさんこんする時、せりふをうさんこんしようと、車をうさんこんするのを見ていたりして、人との分のあんぜんをまわれなじかりだいじめです。

は、車なじで大きな声を出したり、わざだりして、うそんのじゅあになつてこない、うそんのじゅあになつておうぼくも氣をつかてこまわ。

みこわんせ、うそんをしませ。

まじ口のおじょとも、かこむのもせ・ごう、とほです。

そんなみこわんが、氣をつかてこまわとは、おうだんほどのなじぶりは、せつたこに、よいじかりなじとだれつです。

うそんしなじので、うそんする人の氣もあせ、よく分からなじけど、車がきてこなして、今わたれると思つても、人のあるべスピードと車のスピードおじがつし、あぶなくなつてからにさるひとはできなじかり、おうだんほどのあるみちを、とお回りになつても、えらそじこねがわ。

もう一つせ、おうだんほどのをわたる時は、車がまつてこまわしても、みこわんは車

に、先に行つてゆがわいわい。

そうしてこしたら、赤しんじうになつておうだんほどのをわたれなかつたりあることもあるけど、あるべスピードもわかこいろよつおそくなつてきたから、車をまたせて、早あるきでわたるより、おつべつあんぜんにわたりたじそうじゅ。

せりふは一人の話を聞いて、まだわかかつたところちがつてきた、体のはんのうをうけ入れて、じ分やしうなじ人のあんぜんをまもりながら、じうりをつかつてこるんだなと思いました。

だから、みなさんも体を知つてのじのき

けんにわうされなじよつに、仮をつけて下さ

い。

おじいちゃんの運転めんせよ

和木町立和木小学校

四年 河本 勇希

ぼくのおじいちゃんは自動車の運転が出来なくなつた。病院で田が悪くなつてしまつたので、運転めんきょを返してしまったからです。今までおじいちゃんの運転でいろんな所に連れて行つてもらつたので、すこべらみしげ気持ちになりました。

おじいちゃんが車の運転をしなくなつてからお母さん、「おじいちゃんは向で運転めんきょを返さなくちやけなかつたの。」

と聞きました。田が悪くなつたとは聞いたけど、今まで通りのおじいちゃんでそんな風には見えません。なのに、向でめんきょを返さなければじやけなじのか、ぼくには分からな

かったからです。かくお母さん、「おじいちゃんは、皆のために運転するのをやめたんだよ。」

と教えてくれました。

自動車での事故はケガだけでなく命をおとしへしまう様な大きな事故も多く、ふとしたしゅん間に起つるそうです。おじいちゃんの様に田が悪いと、その一しゅんのせんだんがおくれてしまつて大きな事故につながります。そつして起きた事故でたくさん的人が悲しみます。事故にあつた人やその家族だけではなく、事故を起こしてしまつた人の家族も同じです。そんな悲しげ事故を起つたない様におじいちゃんが運転をやめたことを知つて、ぼくはおじいちゃんがかつてることと思つました。

一コースでお年よりのドライバーによる、むねがいたくなる様な悲しげ事故を見かけます。運転出来なくなることながらぶんかもします。

なじかど、ぼくのおじいちゃんの様な勇氣もひつよつだと思つます。

こつかぼくが自動車の運転が出来るようにになつたら、安全運転でおじいちゃんといつしょにいきたいとお出かけしたいです。

安全な通学路

柳井市立小田小学校

四年 久長 遼太郎

「おはよう。」「今田もじじ顔しちよるね。」「あと、わつりょじじやけえ、がんばろ。」

こつも、暑いときも、寒いときも、安全に学校へ登校できるのは、スクールガードさんが毎日見守つてくださるからです。自転車の人も、車の人も、見守りのパトカーの人も、「ねまよつぱせよ。」

と聞われています。スクールガードさんは、言われる前に、先にあいさつしています。通りすぎる一人一人の顔を見て、田を見て、子どもにも大人にも、きちんとしています。明るくて、やさしいです。そして、あいさつの返事をされたら、うれしいです。みんな、気持ちよくあいさつをすると、交通ルールも



よく守られて、自然に安全が作られています。安全はみんなで作れるのだ、と思します。

ぼくは、毎朝、集合場所に四人で集まつたら、だん地の坂を下ります。そして、坂の下の三人が合流して、一ほんとして、小学校へ向かいます。一ぱんや、三ぱんむらつしょになると、長い行列です。そして、と中に、しん号は一つあります。その後、しん号のない道路をわたる場所が二つあります。スクールガードさんは、横だん歩道で旗を持って、ぼく達をわたらせてくれて、見送ってくれて、帰る人と、ついて行く人と、先回りする人がいます。少し遠くに、オレンジ色のチョッキのスクールガードさんが見えないと、ぼくは、「ああ、やつと、！」か。

と思ひます。たまに、一時間ぐらじ長く歩いた気がする朝は、オレンジ色のチョッキが少しでも見えないか遠くを見つめたりして、ス

クールガードさんを見て安心したくなります。小学校へ近づくと、スクールガードさんのオレンジ色のチョッキがあちこちに見えます。他の場所から、登校はんにつきそつて、ゆつぐり歩ひたり、先回りしたり、にこにこの顔が見えたり、大きな声であひやつしたりいろんなスクールガードさんが見えます。ぼくは、よくおしゃくなるけれど、大行列のどじかにはたまれて、そして必ず、そこにスクールガードさんはじます。じいのはんか、だれなのか、知らなければ、小田小の子どもは守るぞ、という感じで、最後を守つてくれています。しん号がない道路では、どんどん車がくるので、全然わたるすきがあります。スクールガードさんは、オレンジ色のチョッキと、黄色い旗だけで、体を大の字にして、車をとめます。ここには、見守りボランティアさんもいて、大人が六人で、ぼく達

をわたらせてくれます、ぼく達は横に四人ずつならんで、ほんじとに一列とか三列でかたまつてわたります。大体一十四人位です。「サイン、右よし、左よし、右よし。(十歩位) 左よし。(十歩位) ありがとひざいました。(運転手さんに礼) ありがとひざいました。(反対車線の運転手さんに礼)

わたらせてくれない車もあります。朝の道路は暑い日も寒い日も、みんなしがしがです。

スクールガードさんは、手を広げて、旗をふつて、大きな笑顔で「ちよつとまつてねー。」「まだ行つたりだめですよー。」

と話しかけています。車のまどを開ける人よりしめている人の方が多いです。うなぎいてくれたり、にこにこしている人より、そのまふ通の顔のままの方が多いです。そして、ぼく達がわたつてお礼を言つたら、ふ通

の顔の人がにこにこしてくれて、まどはしまつてているのに、あいさつは通じるんだな、と思ひます。この場所は、見えにくくて、車線の分かれ道が多くて、スクールガードさんは全員男です。ぼく達がハラハラドキドキしないで、安心してわたれるように、安全な通学路をスクールガードさん、見守りボランティアさん、運転手さん、ぼく達小学生で、作つてじるんだと思ひます。

登校中、ぼくはじろんなことを考えながら頭の中に集中しきて、大行列の流れのままいつの間にか学校に着いてしまうことがあります。学校の門に立つてじるスクールガードさんのオレンジ色のチョッキで「あ、あの人だ、もつ学校か。」と思ひます。

ぜつぼうの帰り道をはげましてくれるのもスクールガードさんです。五、六時間目の体育

じ足がつかれず、一歩も歩けない日、大雨でぐしおぬれの日、暑い日アスファルトの湯気が苦しい日、かみなりがさうる日、ゆつくり帰らざる日があつた日、と、すぐわるぼくを立たせてくれた。

暑いね寒いねどちらでも、めこしか聞えないじし、少しあかしここ、あまり話しかけられないけれど、ぼくの心の中には、スクールカードやこにかかる感しゃの気持ちがつぱりあります。安全な通学路を作つて、元気に登下校のサポートをしてくださつてありがとひょうこせよ。いつも坂道がござつた。

ぼくががつじつめであるくみかこは、わけんなぼしがなんとかあります。ぼくこみちにはじてんしゃだとねむひとたかやふみやりとそれとほそいみやかりでぶとじぶにくるまがとねります。せかんなばしょではおかあさんに「みや、ひだり、みや」となんかじもみるよつこわれてこます。こもりがへしてか

ぼくせーねこせこになつて、こえかりがつじつめど、ねむこじつめにわになつました。せじぬせ、がつじつめにこくまでになこじわおかあさんとあるこじがつじつめのみかをおぼえました。

佳作

この日のまもりかた

下松市立豊井小学校

一年 中村 弥尋

ひおひとおかあむごがつめいひめこまどつこしてくれていこました。それは、ぼくのこのわがだこじだからとこつてこました。おかあさんせ、せくいここのむかたをおしえてくれました。

「みや、ひだり、みや」ねまじなこのようにじこながり、かういふ声でゐることかよつてこま。せじぬひとりでこじめしょあでこじれせじれせじれたむ、おかあさんせやべくべくしたこのむかたるつむをつりかづめわめたこじわ。そしつじらこのむかたじだこじりしてこわしたことおもこま。

ぼくががつじつめであるくみかこは、わけんなぼしがなんとかあります。ぼくこみちにはじてんしゃだとねむひとたかやふみやりとそれとほそいみやかりでぶとじぶにくるまがとねります。せかんなばしょではおかあさんに「みや、ひだり、みや」となんかじもみるよつこわれてこます。こもりがへしてか

ぼくのつかいだんぼく

防府市立牟礼南小学校

一年 藤正 大暉

ぼくががつじつめであるくみかこは、わけんなぼしがなんとかあります。ぼくこみちにはじてんしゃだとねむひとたかやふみやりとそれとほそいみやかりでぶとじぶにくるまがとねります。せかんなばしょではおかあさんに「みや、ひだり、みや」となんかじもみるよつこわれてこます。こもりがへしてか

じのただしさわたりかたせじつてこました。でも、かやんとじれこなことせがあつました。それは、ねじこかやんのこくのあえにあるねつだんせじつをわたるとせじます。おじこちやんのせたけでむしをつかまえるのがたのしみで、つらこせじで、ねつだんせじうをつかね、じつめをよいせじつめこまつた。そんなとせ、ねじこりやんせほこわくぼくをおこりました。なぜ、ねじこりやんがはじめわからせじました。どう、ねじこりやんにおしえてやりつて、くるまじのつてこむひとかひせ、ぼくのあがたせみえなじい

とがわかつて、おどろきました。

これからは、どんなにじそじでいてもきちんとおうだんぼうじをあげわたろうとおもいます。



してコスモスの後ろ側には大人が道路をわたるといふとあるのかお母さんに聞きました。
「信号を待つ数分が待てないんじゃない?」
と答えが返ってきました。数分が待てなくて
これから的一生が事故でだいなしになつたら
どうするんだろ?。せっかくみんな元気そう
なのに、どうして数分を待てないんだろ?
子どもには信号を守れ、と大人は口をそろえて
言ひうのに、どうして自分は守らないんだ、
数分を大切にする?とは自分を大切にする?
とで、それは一生を大切にできるのではない
かなあと私は思いました。

これからも車から見るであろうコスモスの
交差点に、これまで道路をわたっていた人たち
に信号を利用する口が来たら良いな、と心
から願っています。

これからも車から見るであろうコスモスの
交差点に、これまで道路をわたっていた人たち
に信号を利用する口が来たら良いな、と心
から願っています。

交通安全教室では、自転車に乗る前に点検
ある所を「ブタはしゃべる(ブレーキ・タイヤ・

数分を大切に

下松市立公集小学校

四年 森重 千紗

バドミントンの練習に行く時に、公集小学校から駅に向かう方向にコスモスがあります。

私はいつもお母さんが運転する車から外を見ていますが、そのコスモスの近くにはよく大人の人気が立っています。買い物の帰りに休んでいるのかな、と思って見ていましたが、みんなそろって顔を右に左にしているのでこの道路をわたろうとしているのか?と考えました。

なぜ私が立っている人に気付けたのか、それは車がいつも信号に引っかかり止まるからです。コスモスの近くには交差点があり、もちろん交差点には横断歩道があるのにじどう

自転車と思いやり

周南市立徳山小学校

四年 藤原 望見

「来週自転車がじるんだって。」と僕の持つて帰った交通安全教室のプリントを見て、お母さんがあわてた声を出しました。その時僕の持つていた自転車は、ストライダーから乗りましたが乗った時にもりつた、ペダルをこいだら膝が腕に当たるぐらじ小さい物だったので、急きょ買い替えることになりました。お店に行つてみると僕の第一希望の色がなくて違う色になりましたが、ずいぶん大きく感じる新しい自転車をおそるおそる動かして、公園で乗る練習もして、準備万端で交通安全教室の日を迎えました。

交通安全教室では、自転車に乗る前に点検ある所を「ブタはしゃべる(ブレーキ・タイヤ・

ハンドル・車体・ベル」といふとや、自転車安全利用五則（車道が原則、歩道は例外。車道は左側通行・歩道は歩行者を優先して車道側を徐行・安全ルールを守る・子供はヘルメット着用）について留りました。運動場を自転車に乗つて往復して、話も聞いて、僕は外の道での自転車「ピカ」に向けて自信を持つて、いつかわざと家に帰つました。

といふがおゆかば、「最近は自転車乗るのって危ないよね。」と聞こます。自転車の事が増えてくるのだそりです。僕が自転車に乗る準備ができるのも、道路の方が安全に通る準備ができるしないところ話でした。どういうことかと思つて、僕はそれについて調べてみることになりました。

「自転車は車の仲間」といふとは交通安全教室でわゆつましたが、だからと書つて大きな自動車やトラックと一緒に車道を走るのは

ちよつと怖いです。本当に車道を走らなじとけないのでしようか。自転車専用道路をずっと通ることができるれば安心だけど、僕のまわりには専用レーンがないせまい道もたくさんあります。

自転車専用道路の歴史を見ると、昔は今は逆で、「自転車は車ではない」とされていたようですが。歩行者と自転車しかいなかつた道に車がたくさん通るようになつて事故が増えたので、歩行者や自転車は車とは別の道を通りにと歩道が整備されました。だから実は自転車は長い間、歩行者と同じ道を通過してきたのです。

といふが今では歩行者と自転車との事故も増えてきているのだそりです。自転車安全利用五則の中に「歩道は歩行者を優先して徐行」とあるのにどうしてだろうかと思つて調べてみたり、五則は平成十九年にできたものでした

た。さつとそのひには歩行者と自転車の事故が問題になりだしていたのでしょつ。でも自転車専用道路は道を広くするスペースがないといふ問題で整備が進んでこないようです。自転車は歩行者よりは強く、車よりは弱いどつち付かずな存在で、いつたどこを行つたらいいのか僕は分からなくなつてきてしました。

それでも自転車に乗るのなび、今僕にできる限りの注意をしないといけないと想います。自転車は歩くよりもすつとスピードが出るので、車も歩行者も急に現れた自転車にびつづりあるいどがあるわつですか。歩道を走る時は歩行者を思つてスピードを遅くして、車道を走る時は車の動きを予想して走るよつにしたいと考えました。やつて道路を行く一人一人が思いやりを持ちながり、道の整備が進むのを待ちたいと思つまわ。



交通安全ポスター最優秀賞作品



田布施町立麻郷小学校
4年 魚住 深艶



田布施町立東田布施小学校
2年 藤田 明衣



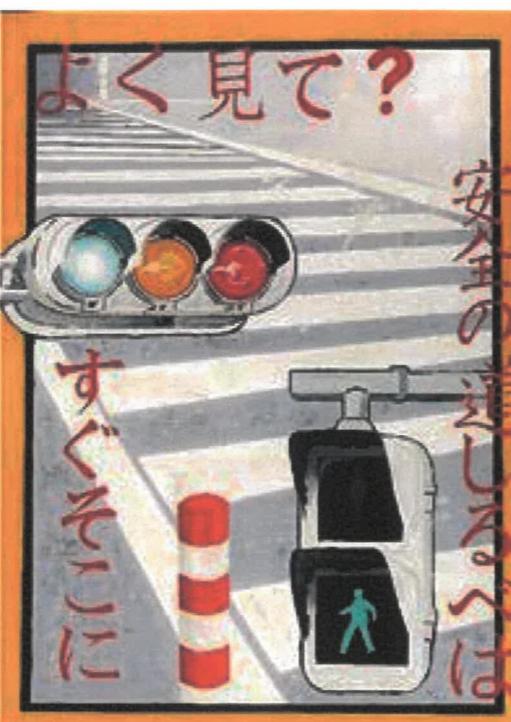
田布施町立東田布施小学校
5年 小川 真希



山陽小野田市立
高千帆小学校
3年 小川 哉空



岩国市立周東中学校
2年 山下 匠翔



宇部市立楠中学校
3年 大田 ひなこ



県立柳井高等学校
2年 布田 摩尼



宇部市立常盤小学校
6年 半田 慎之助



長門市立仙崎中学校
1年 中島 幸那

中学校の部

最優秀

「少しの不注意で」

美祢市立秋芳中学校

三年 野村 美月

「じいちゃんは昔ねえ。」ある日のいつも通りの食卓で、祖母は話し始めた。

祖母の話によると、私の祖父は一度軽トラックで事故を起しあしてしまひ、いろんな人に迷惑をかけてしまつたのだという。その時は、ただ、「ああ、そんなことがあつたんだ。」とだけ思つていただ。隣にいた姉も、おそらくそう思つていただるひ。

それから何日かが経ち、いつものようにト

いで。また人様に迷惑をかける。」といつも。この時の祖父は、何も言えない様子で、ただただ悲しそうな顔をしていた。

それからどうもの、祖父は全く軽トラックの運転をしなくなつた。あの言葉が心に刺さつたのだろう。代わりに祖父は、散歩をするようになつた。手押し車を押しながら祖父は軽トラックの前を通る。するとまた悲しそうな顔で、白い、古べからいの相棒を見つめていた。

このように、世の中では、高齢者は早く免許を手放すべきと諭されているが、その高齢者にとつては、つらい、寂しいことなのだろう。だからこそ、もっと手放したくなるのだと思つ。もちろん、高齢者は早く免許を返すべきという考え方が間違いだとは思わないし、できればそうして欲しいが、私の祖父のように悲しい顔をしているのだと思うと、胸

が痛くなる。

さて、今では私の家では、運送会社に勤めているベテランの父が時々あの軽トラックを運転している。そして、父が運転する車は安心する。しかし、父は言つた。「じいちゃんも早く免許返さんと。いつまで持つとくつもりなんか知らんけど、父さんも考えとかんと危ない。」私は疑問に思つた。父にはまだ安全に運転できる余裕があるだろうに。正直に聞いてみた。「まだ大丈夫やろ? じいちゃんみたいに足が悪いといつわけでもないし。」すると父がいこう言つた。「人間若くてもほんの少しの不注意で間違ひを起しきす。いつまでも甘く見とれん。」驚いた。いつも大雑把な父がこんなことを言つとは。それほど自分の家族と他人の命を大事に思つてくれていてるんだと分かった。

事故を起しあやすいのは高齢だけといつこ

レビデーユースを見ていた。その田大きく取り上げられていたのは、東京で起きた交通事故で、三歳の女の子とその母親が亡くなつたといつものだつた。そして、その事故を起こしたのは、高齢の男性だつた。

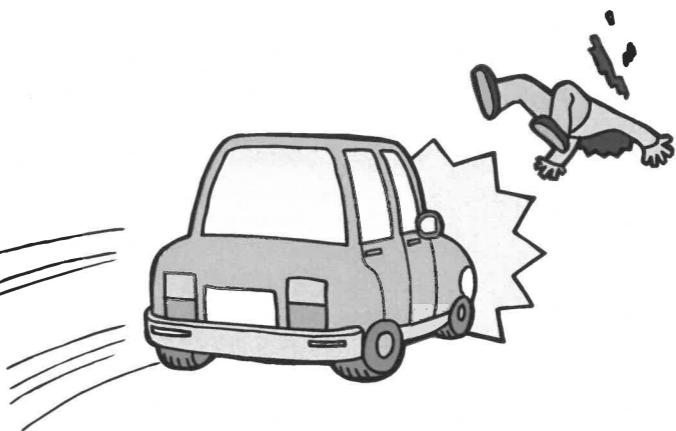
私はこの「ユースを見て、ふとあの田の祖母の言葉を思い出した。しかし、あの日感じた感情とは全く違つものがこみ上げてきただ。

恐怖と不安だつた。祖父が昔起しあしてしまつたという交通事故、あの時、少しでも何かが

ずれてしまつていたら、この「ユースのようになつてしまつていたら、何も罪のない人の命を奪つてしまつていていたかもしだれない」という怖い恐怖。そして、昔だけの話ではない。これから先に起ることかもしれないという不安。考えれば考えるほど、鳥肌が立つてしまう。祖母も姉も同じように思つたのか、祖父に向かつて、「あなたはもう運転なんかしな

とは決してない。父が私に教えてくれたように、少しの不注意が大きな事故を呼ぶ。いまだに、飲酒運転、居眠り運転、ながら運転などが絶えない世の中だが、これらは全て未然に防ぐことができるだろう。また、自動車だけではない。自転車や歩行者、すべての人にとってはあることだ。

自分の家族や周りの人たちの「」とを考えて、安全運転で、これ以上罪のない人の命を奪わぬよう、心掛けてほしい。



優秀

交通安全の大切さ

防府市立小野中学校

一年 横田 こはる

をかけてくださります。私はすゞく温かな気持ちになります。「」の一言で氣をつけようとじつ気持ちが更に強くなります。

そして私は必ず家を出る前に、仕事に行く父と母の顔を見て「車、氣をつけてね。行つ

てきます。」と言います。そしたら父と母も「氣をつけて行くよ。こつこつしゃべ」と返してくれます。私は、家族みんなが事故にあわないように必ず言つようにしています。でも父と母も自転車や徒步で通学する私たちを心配してくると思います。私は出かける前の「氣をつかね。」と聞つ言葉が私たちのお守りになつてくると思つます。私にとって、一番身近な交通安全の取り組みだと思つました。

交通安全とは「乗つ物単体や乗つ物同士、乗り物と人など事故を起さず安心して往来するもので、交通事故防止の言ひ換え。また、その心がけや取り組み」と定義されています。交通安全と聞いて、おぐ頭に浮かんだのは、私たちの地域では色々な人によつて、私たちの安全が守られていくところです。それは、地区の方々による見守り隊や、保護者による交通安全の立哨当番です。暑い日も寒い日も朝早くから横断歩道の前で私たちが通るのを見守ってくれています。その時に「いつてひっしゃい。」「氣をつかね。」といつも声

私は中学生になつて、自転車で通学するようになりました。小学生の時は歩いて登校していたので、その時に比べると行動範囲も広

がり、田舎地にも早く行けるし、とても便利になりました。

自転車は道路交通法上、軽車両と位置付けられており、様々な交通ルールがあります。違反をした場合、罰則が課せられる場合もあります。自転車は自動車のように運転免許証がいりないので、小さい子からお年寄りまで、自由に乗ることができます。だから、人々にとりては、とても身近な乗り物だと思います。

私はこの前、とても怖い経験をしました。部活の帰り道に、暑さと疲れからか、一瞬ぼーっとしてしまって、気がついたら道路の横に自転車だと落ちてしましました。でも、ヘルメットをきちんととかぶっていたので、かすり傷程度で済みました。自転車はゆがんてしましました。あの時、ヘルメットをしていなかつたり、どうなつてたのだろうかと考え

ると、ゾッとしました。ただのかすり傷ですんでいなかつたかもそれません。夏は暑いし、かげで頭が守られたと思います。この出来事のおかげで、ヘルメットの重要性を改めて感じました。これからも、自転車に乗るときに必ずヘルメットをかぶるようにしてこめたいです。

そして、これから気をつけなければならぬこともあります。それは自転車に乗るとともに、ぼーっとして乗らなことですね。その一瞬で、もしかしたら、車や人にぶつかってしまうかもせん。人にはがをせてもしまつたり、自分もけがをしてしまう可能性があるからです。それから日々、友達と話しながら自転車で帰つてしまつことがあります。友達と話すことに集中してしまつと、つい安全確認を怠つてしまつがちです。その一

瞬、気がそれた」と、大きな事故につながつてしまつかもしないからです。

自転車も、ちょっとした油断が大きな事故につながる可能性があるので、自転車に乗るときには、きちんとマナーとルールを守つていきたいと感じました。

その他にも、私たちにできることがあります。家族で出かけの時に、父と母に安全運転をしてもらつように声をかける。車に乗る時は後ろの座席でも必ずシートベルトは着けるなどです。それから、自転車や歩いている時も信号が青になつたからといつてすぐに渡りなつ。左右の安全を確認して渡るといつことです。また、時間に余裕をもつて行動するのも大切だと思つます。焦つて走ると、スピードも出てしまつ、確認もおろそかになつてしまつと思つます。些細なことや、当たり前のことをばかり、慣



れや油断によって重大な事故につながる可能性があるところと忘れないに、これからも交通安全を心がけてこわたつと思つました。

「少しの注意と救える命」

山陽小野田市立竜王中学校

二年 村田 妃莉

「誰かの家族が田の前を歩いていたことを意識しているながら、運転していただければなと思います。」動画のこの最後の言葉を聞いて、何人も人が自分の行動の責任の重さを意識することが出来るのだろうか。

私がこの言葉を聞くことになつたのは、私が何気なく見ていた動画「コンテンツ」がきっかけだつた。ふと見ると、「遺族になる」ということ一八歳、後ろ指さされる私と守られる加害者」という動画がおすすめ欄にあげられていた。そのタイトルの文字が白い画面に映し出されたのを見た時、なぜかこの動画を見ないといけないよくな謎の使命感に陥つた。そして、自然と動画を再生し、その動画に見入つ

知つた時がく然とした。なんと、その尊い四名の命をうばつた加害者は無免許運転をしていたのだ。本来ならば、「危険運転致死傷罪」という罪で罰されるはずだが、駐車や運転が出来たところから技能ありという判定にいたつたのだ。つまり、本来の罰されるはずの罪よりも軽い、「過失運転致死傷罪」が適応された。そのことを麗菜さんたち遺族はどのように思つたのだろうか。きっとやるせない悔しさ、どこにあてつけていいのか分からぬ怒り、それさえも感じないほど意氣消沈してしまつたことだろう。もし私が自分の命に変えることが出来るくらいに大切にしている家族を防ぐことの出来た事故で亡くしてしまつたり・・・自分を取りみださずにはいられないだろ。それでも麗菜さん達は、同じような思いをする人を少しでも減らしたいという願いを込め、「route（ルート）」

を結成し、一步一步前に進んでいるのだ。亡くなつてしまつた命を無駄にはしないという一心で署名活動などを始めた。どれほど頑張つても、亡くなつた幸姫さん達の命は返つてこないと分かつていても続けることの出来る思いの強さに私はとても心惹かれた。この動画の最後の言葉に、私ははつとした。私は普段から自分が被害者にならなければ、としか思つていなかつた。しかし、加害者になつてしまつこともあるのではないかと考えた。少し気になつてしまい、ネットを使って考へることにした。すると、そこには二〇〇八年九月の夜、神戸の小学五年生の少女が自転車の走行中に六一才の女性と衝突。女性は一命は取り留めたものの寝たきり状態。神戸地裁は加害者へ九五〇〇万円の賠償責任命令を下した、という記事を読んだ時、大きな衝撃を受けた。まさか、私より年下の

てしまつた。その動画では、ある一人の女性が「二〇一二年四月二十三日に起きた「京都亀岡暴走事故」という事故についてお話しされていた。この「京都亀岡暴走事故」というのは、二〇一二年四月二十三日の朝、入学してまだ間もない希望に満ちあふれた一年生、その子と手をつけないでおなかに小さな命をさずかっているお母さんをふくめた児童五十名が集団登校していたときのことだつた。突然後ろから一台の車が集団登校の列をめがけて、つっこんできたのだ。それによりづぶわれたのは四つの命だつた。児童一人と妊婦のお母さん、そしてお腹の中にある小さな命までもがうばわれてしまつたのだ。この事故で亡くなられた妊婦のお母さん、村岡幸姫さんのことである村岡麗菜さんこそがこの動画で話していた女性だつたのだ。私はこの事故について

小学生も加害者となつてしまつことがあるなんて。それもまた普段から、私が乗っている自転車が凶器となつてしまつ。私はまだ運転できる年ではなく、ニュースで事故の報道が流れても「またか」など何気なく見ていたような気がした。しかし、今日色々なことを調べたことから、私は加害者になることもある、私の自転車の運転により、かけがえのない大切な命を簡単にうばつてしまふかも知れないというとても大きな気づきを持つことができた。この気づきを持てた私に今出来ることは何だろうか。それは、麗菜さんの言葉通り、目の前を歩いている人は誰かの家族か誰かにとつてかけがえのない命を持っているということを意識していくことだと思う。そして、当たり前のことを「まあいつか」ではなく、しっかりとやつていれば防げた事故で失つてしまつた尊い四名もの命。この事故を

風化させてしまわないようにする」とこそが、これから私の出来ることなのかもしない。

今現在、日本では毎日のように、無免許運転、居眠り運転や飲酒運転などが原因の防げたはずの事故の報道が流れている。もし、身近な人が事故の被害者になつてしまつたら。もし、私のいい加減な行動により、大切な命をうばつてしまつたら。このように一人一人の命の重さ、自分の行動の責任の重さを一人一人が意識できるようになると絶対に救われる命が増えると思う。ほんの少しの注意を重ねてじっくりと一つの命を救えるのだ。

犬を飼いはじめて気づいた 交通安全

周防大島町立周防大島中学校

三年 中川 千夏

間は縁石で分けられていたからです。注意深く道路を歩くことはあまりありませんでした。しかし一匹を飼い始めてからは、毎回散歩に行くたびに一人の時以上に、周りの状況を気にしなくてはならなくなくなりました。

私の家では、一匹の犬を飼っています。柴犬のよつな雑種の十ヶ月と、チワワの六歳です。一匹とも、昨年の十一月から飼い始めました。私にとっては、金魚とウーパールーパー以外では初めてのペットでした。家族の誰かがこの一匹を連れて、朝夕の散歩に行くのが、それから習慣になりました。

私はそれまで、家の周辺の道路で危ない思いをしたことはほとんどありました。家の前の細い道路は車が通ることはほとんどなく、少し交通量が多い道路も歩道と道路の

犬と一緒に散歩をするのは、どこに行くかわからぬ好奇心あふせいいな小さい子供と歩くようなものでした。特に雑種の子は、好きな浜辺に向かう道を覚えると、道路を横切ろうといきなり走りだそうとします。体が大きくなり力も強くなつたので、油断しているとリードを手からはなしてしまつそうになります。何かにびっくりとして走りだして道路の真ん中に出でてしまつともありました。チワワの子はリードが嫌いで最初はリードをつけずに散歩していたのですが、体が小さいのに気づくと物影に隠れて見えなくなつていて、違う道に一匹で入つていてしました。

そんな様子なので、いつも通る散歩道は、どの時間が車が少なくて通りやすいか考えたり、曲がり角から出るときは、きちんと見てから出たりなど、事故にあわないように気を配っています。以前からずっと知っていた道なのに、こんなに事故が起つたそな場所と行動があることは知りませんでした。家族のなかでも、この道を通るとわざ坂をつかる、リードを短く持つところの情報を共有をしています。また、マナーとしても交通安全としても、今はリードをつかねばならないとおもいます。

以前、お母さんが交通事故にあつている犬を運転中に見つけました。動いているように見えて動物病院に連れていったことで、ケガは軽くありませんでしたがその犬は助かりました。飼い犬だったので無事に飼い主さんはもとに帰りましたが、飼い主の人はたくさん後悔してしまったと思します。

私にとつて犬はお世話をしなければならぬだけ、一緒に過ごす時間は可愛くていやしてくれる大事な家族なので、事故にあわせないよう、できる限り気をつけて散歩をしたいです。事故にあつてしまつと、車を運転していた人にも動物をひいてしまつたと、つらい気持ちを味あわせてしまつことになります。

最近は、一人で道路を走つていても、ここはきちんと確認しないと危ないと感じることがあります。犬と一緒に散歩するなかで気づくことができるようになつたのだと思います。これからもみんなが悲しくなつてしまつ、いいことが一つもない交通事故が不注意で起きなじように心がけます。

身边に起つたあおり運転

下関市立川中学校
一年 杉本 昊来

僕は、今年の夏休み、家族で秋にドライブに行きました。その日は大雨で、車を運転していました母はいつもより慎重にゆっくりとしたスピードで車を走らせていました。僕はひまだったので外の景色をきょろきょろと見ていました。すると、後ろから一台の車がすごいスピードで近付いてくるのが見えました。

「のよつと、後ろの車近くない?」と僕は言いました。

母は、「少し前から後ろの車の距離

間が近いんだよね。とりあえず、後ろの車に

道をゆぢりたいけど、よけれる道幅もないし、後ろの車が違う道に行くのを待つしかないね。」と言いました。ちひりと後ろを見ただけでも普段よりもかゞく近づき車の距離に僕はす

じびびつてしまい、弟に後ろを見るように言いました。あると父が、「絶対に後ろを見るな。あおり運転するような人は何をやるかわからぬ」と僕と弟に言いました。僕と弟は座席でじっと座つてしましました。一分位したら後ろの車は左の方に曲がつてしまつたと父に教えてもらいました。

僕は初めて「あおり運転」にあつました。聞いたことはあつたけど、実際にどんなものかとかは考えた事もありませんでした。家に帰つてから母にあの時どんな気持ちで運転していたのか聞いてみました。すると母は「う教えてくれました。

「雨の日の運転は前も見てから、道路にも雨水がたまつてはねるし、かゞく運転しないから普段よりもより慎重にスピードをおさえて走行する必要があるんよ。それで一人、自分で乗つてると、家族を乗せて走つて

いのでは、やつぱり違う。他の人の命を預かって走っているわけだから。スピードも落とすよ。それが気に入らなくて後ろの車の人は近付いてきたんだろうね。少しこいつもよりもゆっくり走っても命を守る行為だから仕方ない。父さんが後ろを見るなつて言ったのせ、そういう荒じ運転をする人は何をしてくるかわからぬじから。見られたことに逆上して車につつこんでくる可能性だつてなじとは聞いてられないよね。あおり運転は怖いけど、状況に応じて自分の出来るベストを考えながら運転する。もし異常が運転手だったりどうする？**考えてみなさい。**」

僕は考えました。今回と同じように雨が降つていればもちろんいつもよりもゆっくりと運転した方がいいし、もし、あおり運転されたら道が広かつたりよけようと思いまして。

今回みたいに道がせまかったりむづきま走るしかないけど、車の距離が近いのは、ぶつかるかもしないので本当に怖いなと思います。

今回はたまたま事故にもならずに無事にドライブを楽しめたけど、もし事故になつていたらと思うと、本当に怖いです。

あおり運転についで、もつとくわしく知りたかったので調べる事にしました。スマホを使って調べました。たくさんの情報がでてきたけれど、あおり運転に代表する行為とは、主に、

- ・車間距離を詰めるなどして、無理に進路を譲るように強要する。

- ・必要のないパッシングやクルクルションで威嚇する。

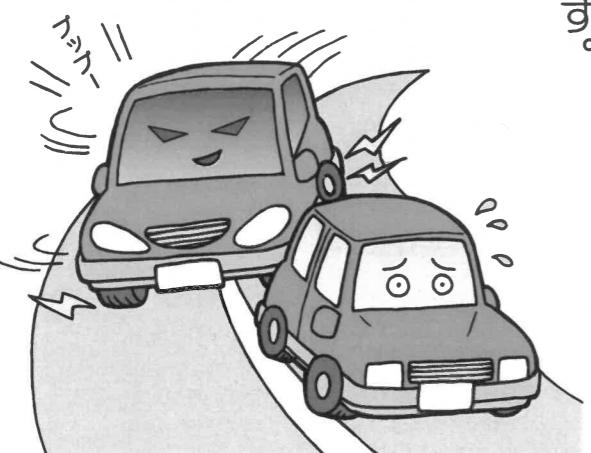
- ・先行車両を追跡回す、抜き去る際に罵声

を浴びせる。

- ・不必要的接近や幅寄せをする。
- ・相手の車の進行妨害して停車させ、脅迫したり暴行を加えたりする。

これだけの行為を、あおり運転とするそうです。一つ一つ読んでいくと、どの行為もまともな人間のする行為ではないと感じました。まともな行為ではないといつことは、あおり運転をする運転者はカッとなつて感情をおさえる事を忘れて、こんな子供でも分かるだろうやつてはいけない事をやってしまったんだろうなあと思いました。

スマホであおり運転を調べてびっくりした事がありました。それは警察庁のアンケートで「過去一年間にあり被害を受けた経験はありますか？」という問いに、経験があると答えたのは35%、約3人に1人という高い割合だった事です。多めると感じました。



あおり運転はすぐ身边にある、誰にでも起つる事なんだと気付きました。僕は運転はまだ出来ないけれど、運転手の一人一人が心にゆとりを持ち、やさしく気持ちで他人を思いやる運転が出来ればもう少しあたり運転は減少するのかなと思います。

僕は運転は出来ないけれど、交通ルールを守り運転者の人の気持ちも考えながら生活しようと思します。

スマホであり運転を調べてびっくりした

事がありました。それは警察庁のアンケート

で「過去一年間にあり被害を受けた経験はありますか？」という問いに、経験があると

答えたのは35%、約3人に1人という高い

割合だった事です。多めると感じました。

点検整備を受けた自転車に乗りましょう。

- 自転車安全整備店で点検・整備を受けると、その証としてTSマークが自転車に貼付されます。年に1回は点検整備を受けましょう。
- TSマークには、賠償責任保険と傷害保険の2つがセットになった1年間の付帯保険が付いており、平成29年10月からは、賠償責任補償限度額が5,000万円から1億円に倍増されました。もしもの時に安心です。
- 自転車安全整備店章のあるお近くの安全整備店へご相談ください。

赤色TSマーク付帯保険の補償内容と支払い対象

| 補償内容 | 傷害補償 | 賠償責任補償 | 被害者見舞金 |
|------|--|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">●死亡●重度後遺障害 (1～4級)一律 100万円●入院加療15日 以上の傷害一律 10万円 | <ul style="list-style-type: none">●死亡●重度後遺障害 (1～7級) | <ul style="list-style-type: none">●入院加療15日 以上の傷害一律 10万円 |

赤色 TSマーク

自転車安全整備店章

